



【本格M漫画】

ふろーらのいんてい

# フローラの淫庭

前篇



絢爛たる妖花咲き乱れる人工熱帯。

ガラスの魔境に囚われたマゾ淫虫たち！

暗藻ナイト





その日、成田空港に  
一人のフランス人女性が  
降り立った

マルグリット・ヴェール  
24歳独身

先ごろ亡くなった母親の  
日記を読んで、初めてその  
存在を知った異父姉に  
会うための来日だった

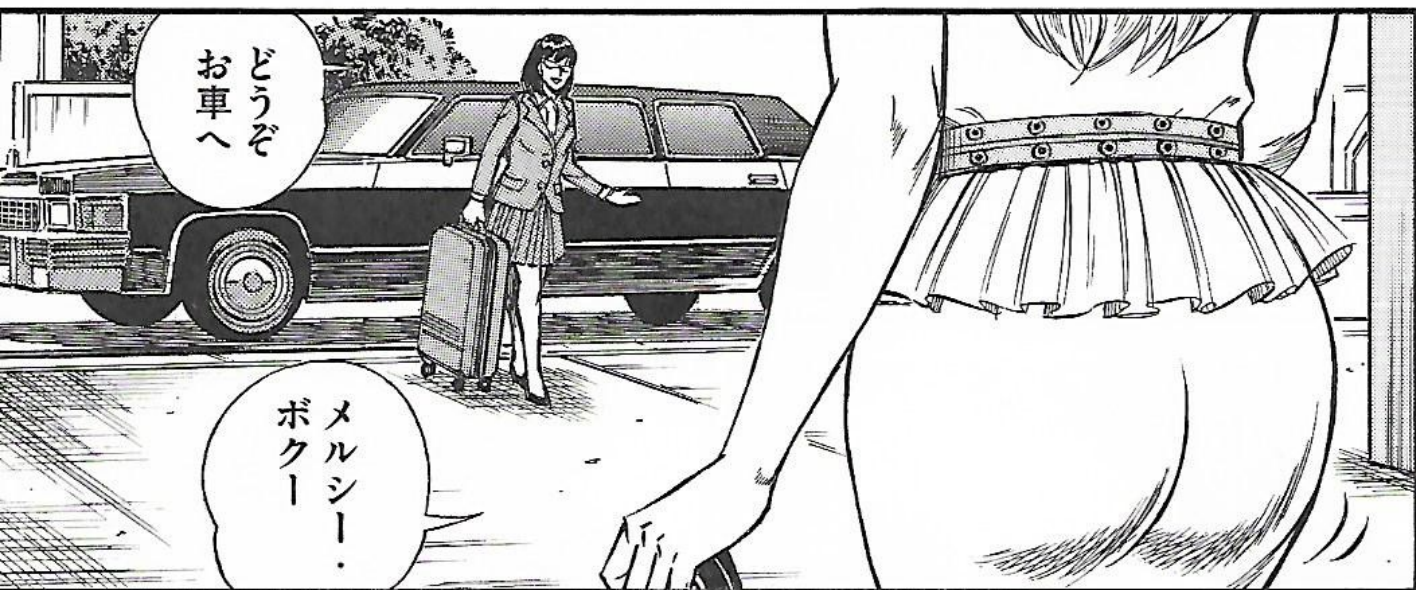




お姉さまの使いで  
お迎えに上がり  
ました



ボンジュール！  
マドモワゼル・  
ヴェール



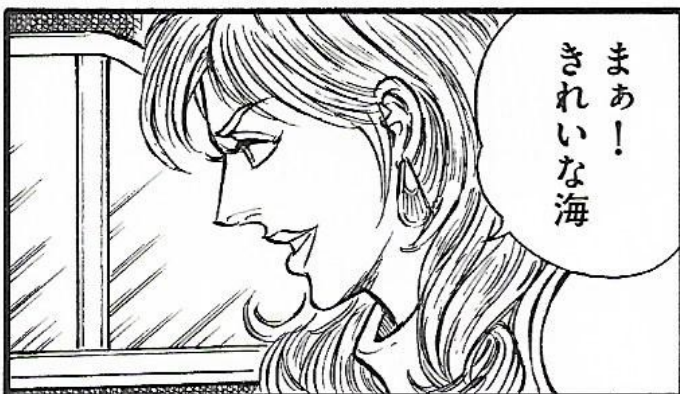
どうぞ  
お車へ

メルシー・  
ボクー



あつ！

あちらに見えてきた  
大きなガラスの  
ドームがお姉さまの  
別荘でございます

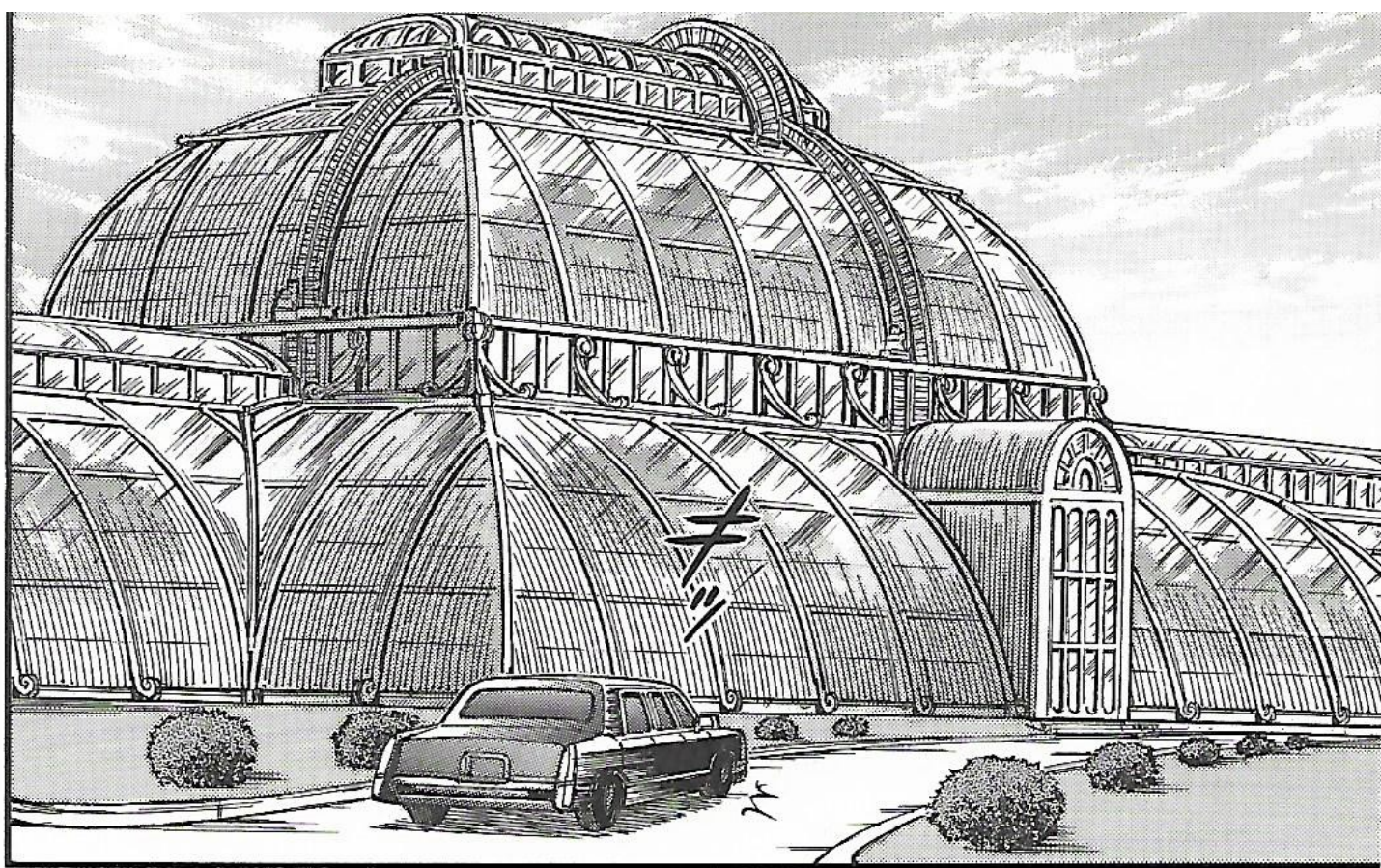


まあ！  
きれいな海



はいこの伊豆近辺は  
風光明媚な保養地と  
なっております





いらつしやい  
マルグリット!



驚いたわ  
これは  
温室ね!

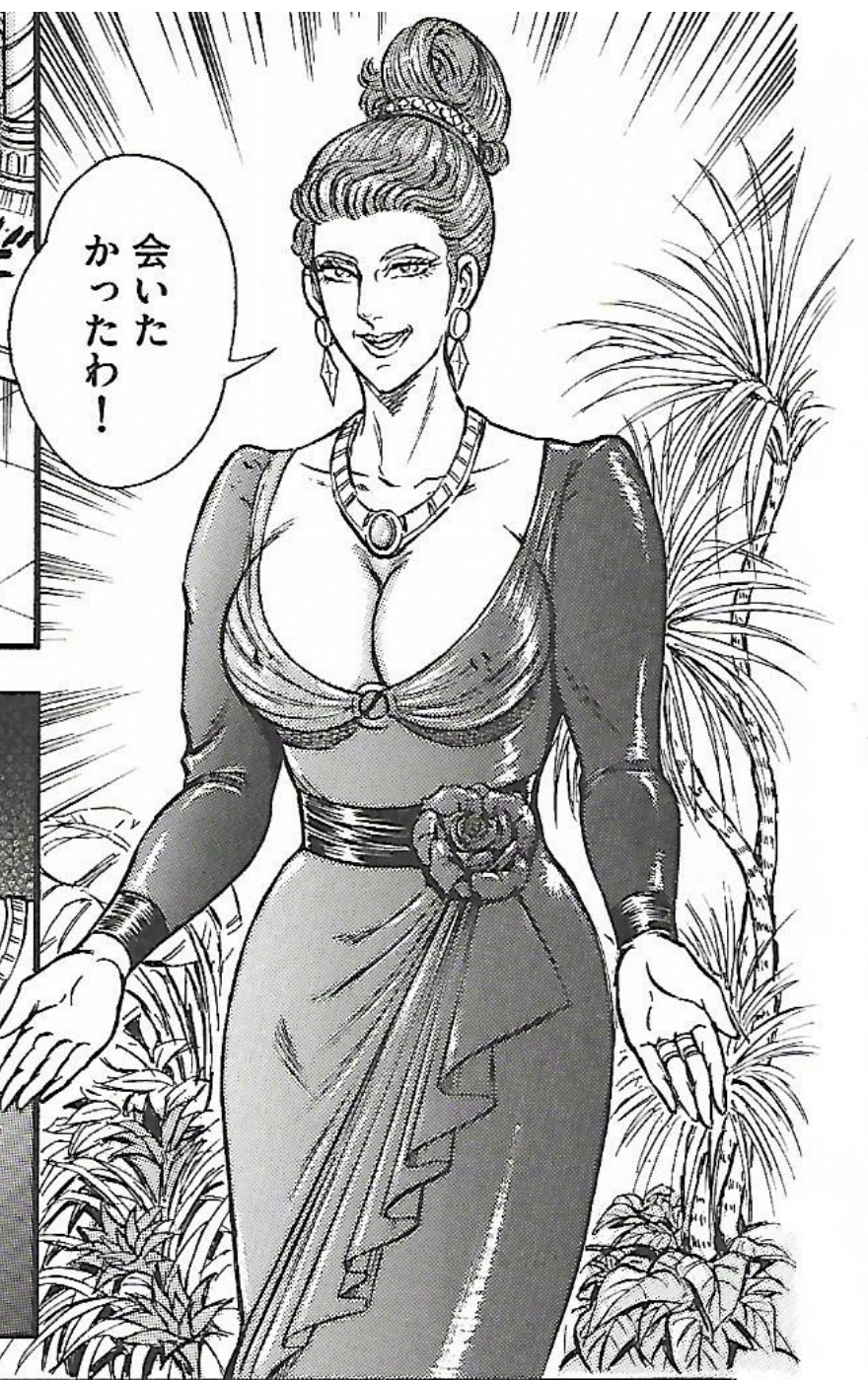
さようです  
英国キュー植物園  
の大温室を模した  
建築でございます  
—どうぞお入り下さい







ははじめまして  
…セシルお姉さん



会いた  
かったわ！



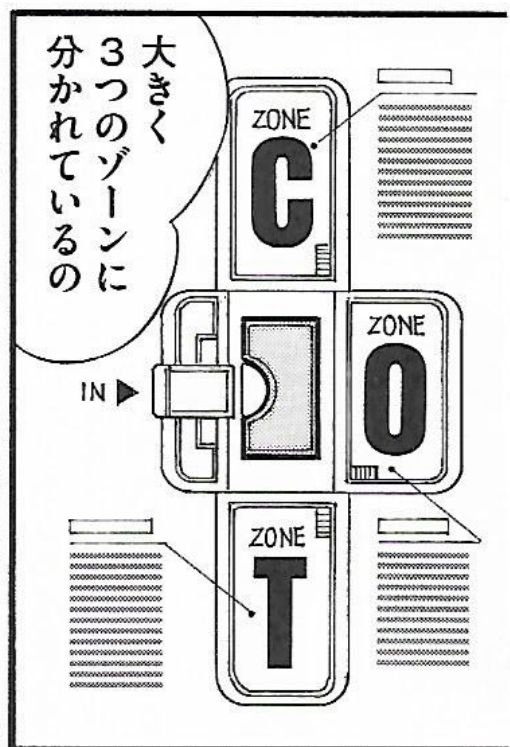
はじめまして  
モン・スール！  
(我が妹)



姉妹は各々の  
半生を語り合った

今から35年前——  
二人の母親シモーヌは  
パリ留学中の日本人男性と  
結ばれてセシルを生んだが  
夫の交通事故後娘を  
日本の親戚に預けたまま  
音信不通に……  
その後フランス人男性と  
の再婚でマルグリットが  
生まれたのだった









な何  
あれっ!?

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ

うーん...



花や植物と同じくらい  
...いえそれ以上に  
お姉さんが大好きな  
こと...

それは—



ひとつ  
大事なことを  
話すのを忘れ  
てたわ!



ホホホ  
驚いた?  
マルグリット

ここは  
いったい...



こんな風に  
男を苛める  
ことよ!!





フフフ...

お姉さん

まあそんなに  
恐い顔しないで  
マルグリット

今にあなたも男を屈服  
させ支配する快感が  
分かってくるはずよ！

ここに囚われた  
連中の大半は  
被虐の劣情に溺れて  
人生から落伍した  
重度のマゾヒスト達よ

例えばこいつは  
かつては高級なスーツを  
着て紳士を気取っていた  
某大学の元学長――

それが今や、パンツ一枚  
穿くことも許されぬ  
家畜同然の身分！







ほら！ お前の  
その卑しい口で  
お客様にご挨拶を  
するのよ！

そのあいだ私は  
この鉾つきの  
スパンキング・  
ラケットで楽しま  
せてもらうわ



もっと変態の  
ブタマゾらしく  
ブーツの裏まで  
舐めしやぶる  
のよ！







ヒイイッ！  
それだけは  
お許し  
下さーいっ！



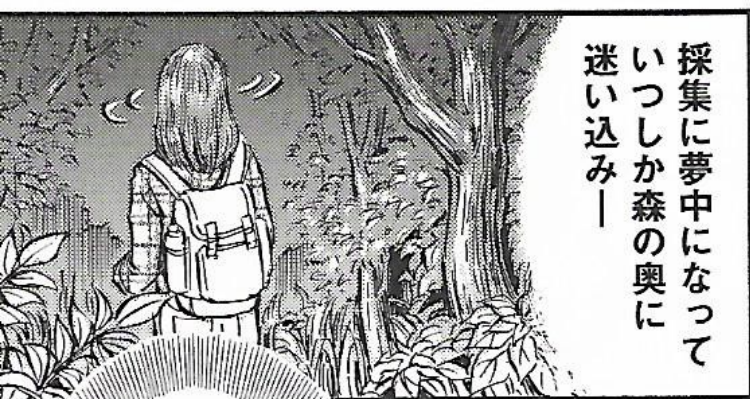
ホホホホ  
お前にはお尻  
だけじゃ物足り  
ないかしら？

今度は仰向け  
になって  
ペニスを  
お出し！

ブルブル

そう…  
大学3年生の  
ある夏の事件が  
きっかけかしら…

…でもお姉さん  
なぜ男性を苛めるのが  
好きになったの？  
いつから？



採集に夢中になって  
いつしか森の奥に  
迷い込みー

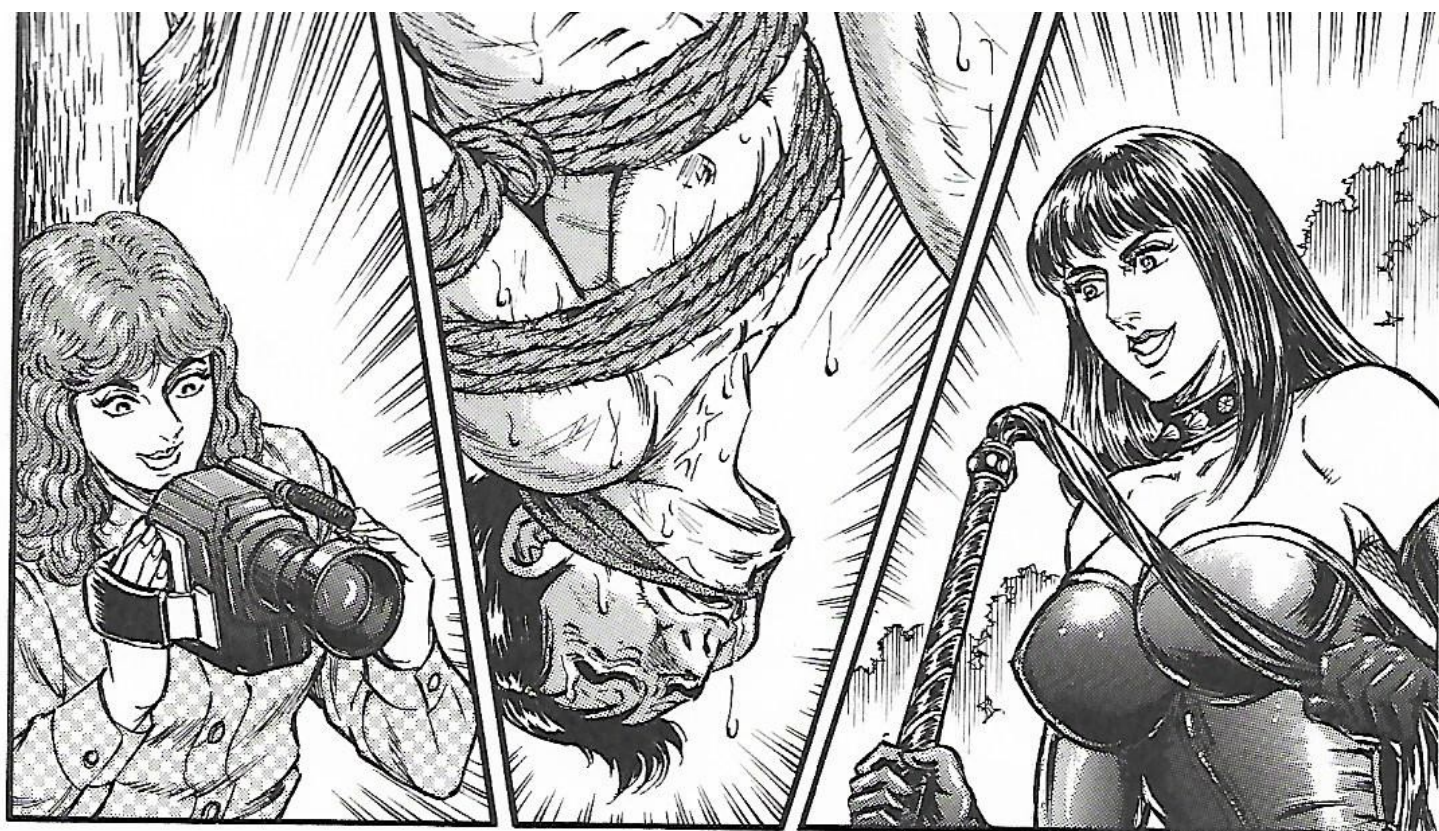


茂みの間から  
ふと私が目に  
したものは！

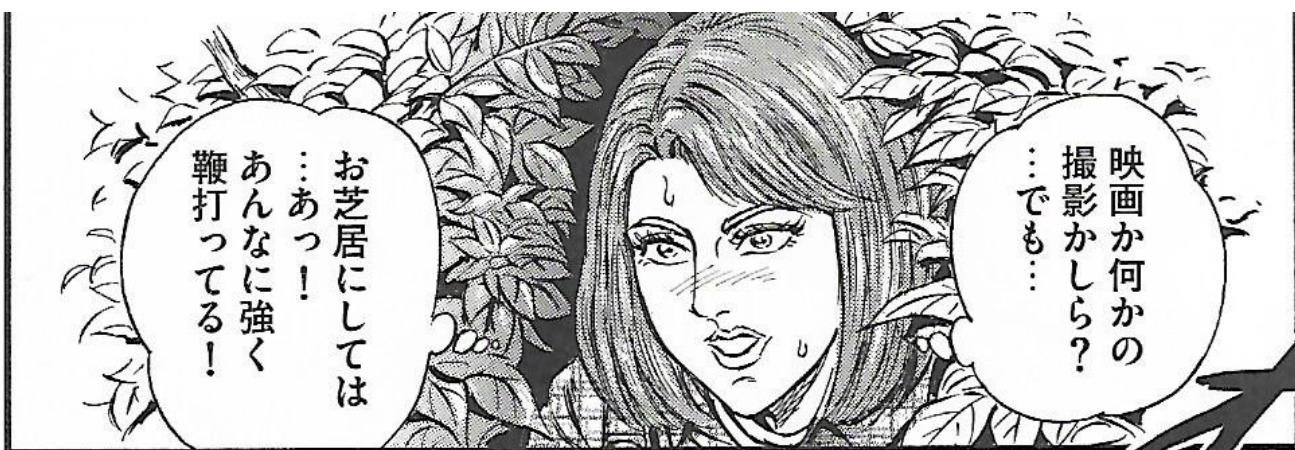


当時植物学者を  
目指していた私は  
卒論のテーマに選んだ  
珍しい植物を  
採集するために  
ひとりで長野の山に  
分け入った









映画か何かの  
撮影かしら？  
…でも…

お芝居にしては  
…あつ！  
あんなに強く  
鞭打ってる！



今度は  
人間  
ブランコ！

…でも  
男の人は  
あんなに悲鳴を  
上げてくるせに  
何だかうっとり  
してるようにも  
見えるわ…

第一ペニス  
が  
ずっと大きく  
なったまま  
だし…







一気がつくと私の股間は  
じっとり濡れていたわ…



はっ！

…

サッ



あとになって  
それは某マゾビデオ  
会社の撮影だったと  
分かったけど—

あの日を境に  
私の中で  
「何か」が  
目覚めたの

「何か」  
って？



さあ次は  
ゾーンTよ！



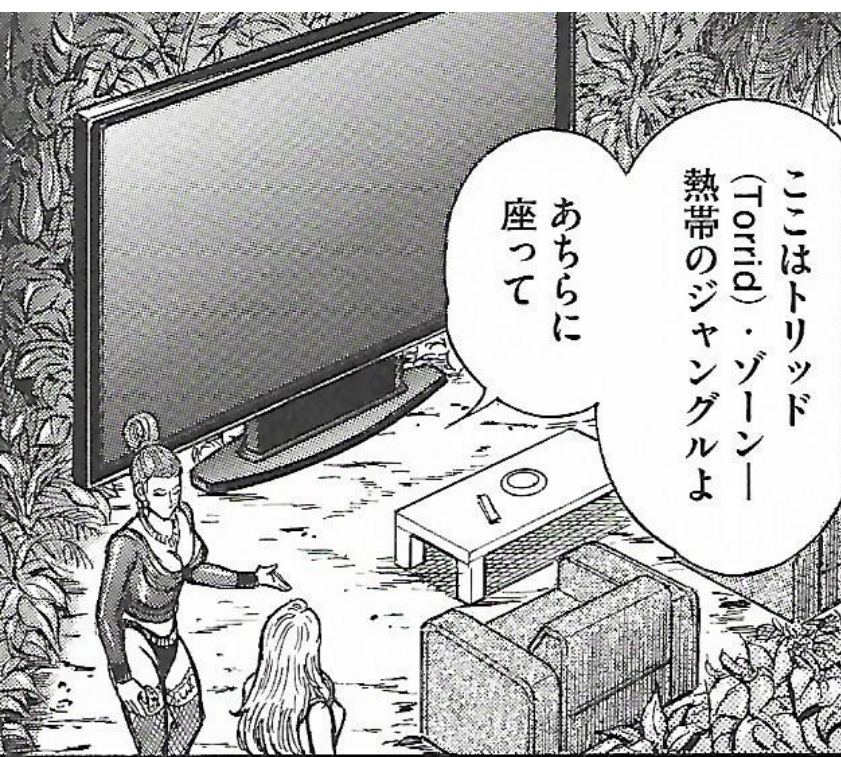
…だけど実は  
私の心奥に眠って  
いたサディズムは  
はるかに根深い  
ものだったの！

そのことは  
あとで話すわ  
…



私の場合—  
それは植物  
への偏愛と  
奇妙に絡み合った  
屈折したサディズム



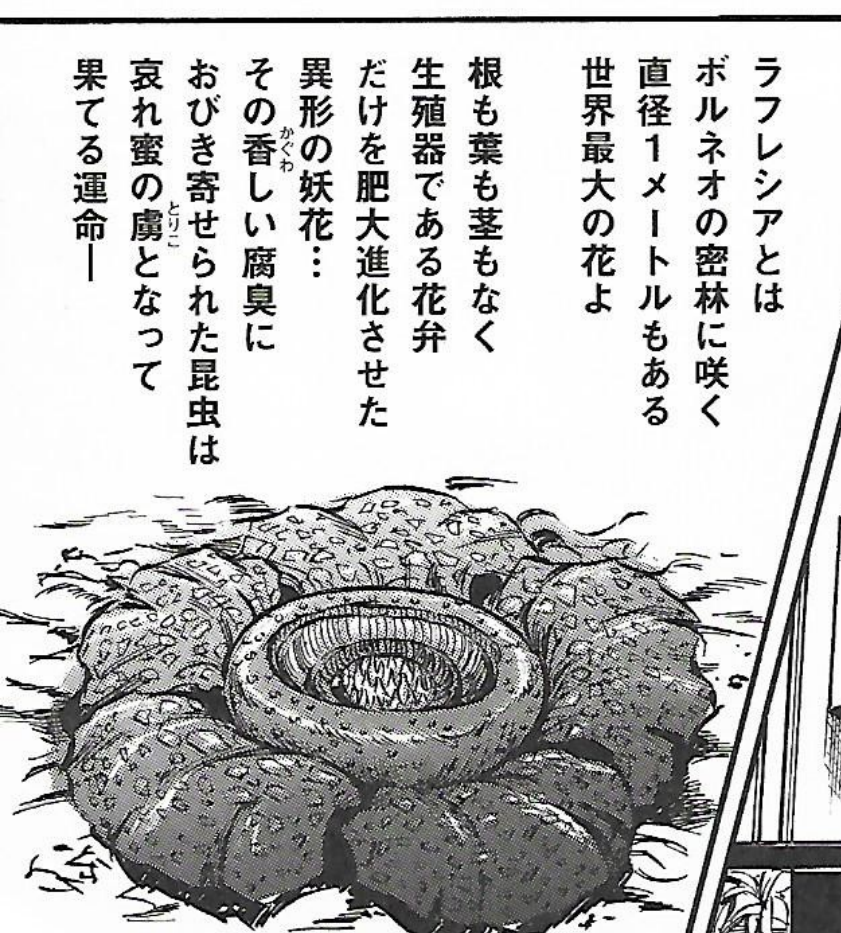


あちらに  
座って

ここはトリッド  
(Torrid)・ゾーンー  
熱帯のジャングルよ



私の経営して  
いるお店の  
ひとつを映像で  
紹介するわ



ラフレシアとは  
ボルネオの密林に咲く  
直径1メートルもある  
世界最大の花よ  
根も葉も茎もなく  
生殖器である花弁  
だけを肥大進化した  
異形の妖花：  
その香<sup>かぐわ</sup>しい腐臭に  
おびき寄せられた昆虫は  
哀れ蜜<sup>とリ</sup>の虜<sup>こ</sup>となって  
果てる運命――



これは  
六本木にある  
会員制SMクラブ  
「ラフレシア」  
の入口



その名前を冠した  
このクラブは  
巨女ミストレスの  
専門店よ

女王様は全員  
巨体・巨尻揃い  
！

これは店内の  
プレイルームに  
9台設置した  
カメラのライブ  
映像ね

マルチ画面を  
切り替えながら  
少しプレイの様子を  
覗いてみましょうか



わ、わたくしめは  
汚れたパンティと  
女性の大きな  
おしりが大好きな  
ド変態のマゾ男  
でございます  
……どうか  
奴隷として  
厳しくご調教を  
お願い致します  
……

ズル  
ズル



口だけは達者な  
ようだけど  
ヒップ120センチの  
私の顔面騎乗に

お前のその貧弱な  
体がどこまで耐えら  
れるか楽しみだわ！

ぐえっ！

あーら お前  
誰の許可を得て  
チンポの先を  
濡らしてる  
のよ？

う  
う  
っ  
！

グ  
ニ  
エ  
ツ

三













To be continued



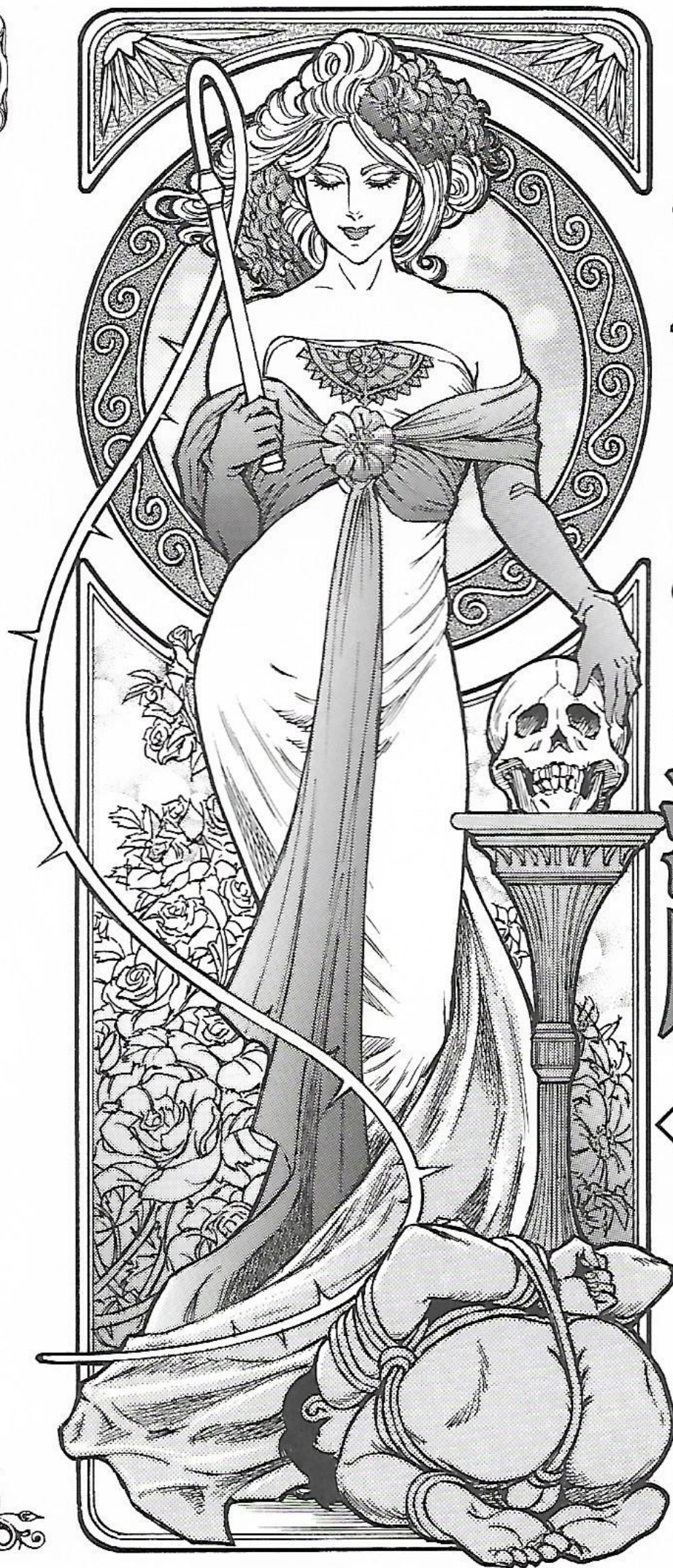


【本格M漫画】

ふろーらのいんてい

# フローラの淫庭

後篇



可憐なマドモワゼルの呪われしDNAが目覚めるとき  
斯界最凶の「魔王」の血脈が二百年の時を越えて蘇る！

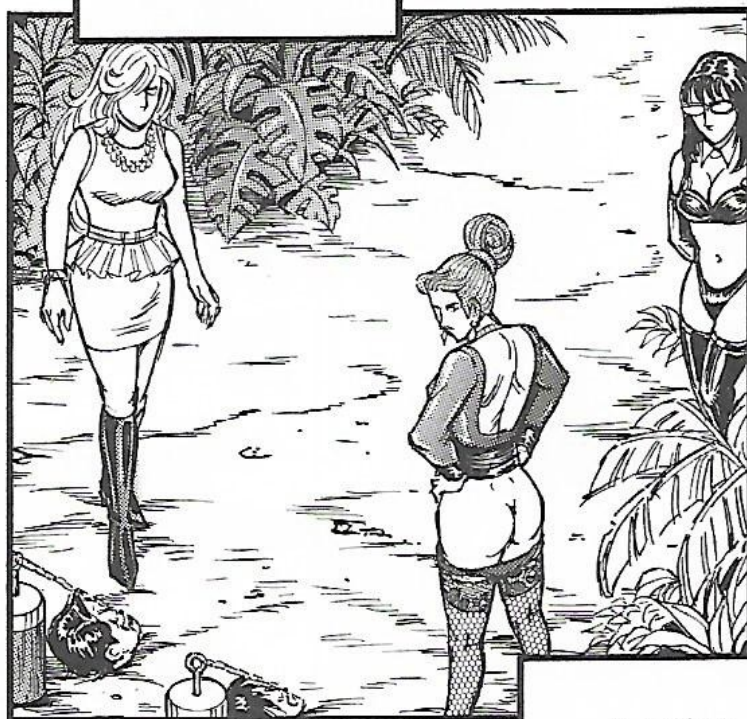
暗藻ナイト





南伊豆のとある岬に  
燦然とそびえ立つ  
ガラスの大温室――

それは日仏ハーフの  
本格派ミストレス  
滝川セシルが造った  
調教ガーデンだった



今しもそこでは  
卑しきマゾ男どもに  
かぐわ  
香しき、肥料が下賜  
されようとしていた！







セシルのアシスタントの一人  
沢口エリカ



かしこまりました

さあエリカ  
植木鉢を  
セツトして  
ちょうだい



ほらっ  
ご挨拶を  
するのよ！

はいっ

ほ 本日も…  
セシル女王様  
お手製の肥料を  
ありがとうございますっ！











ホホホ  
ホホホ



ああっ  
!





ほーら  
どんどん  
お食べ!!

ホホホホ

おえ  
えっ!

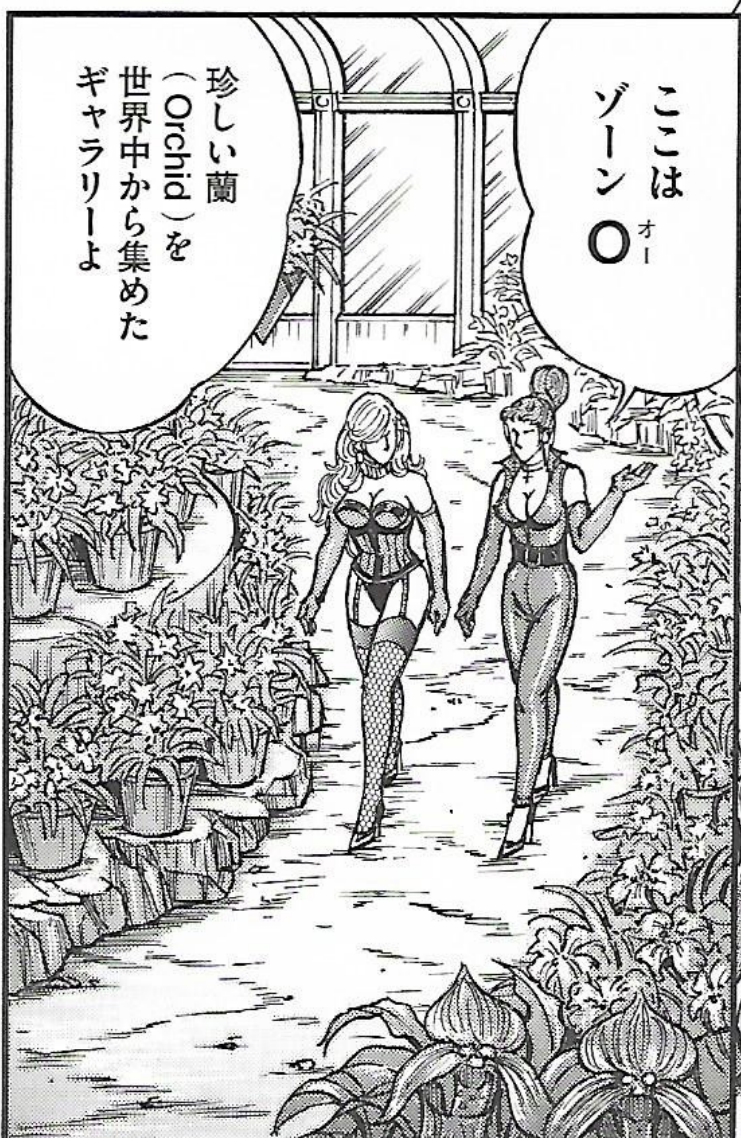
うげ  
えっ!













蘭はヨーロッパでは  
昔から高貴さに加えて  
頹廢的・惡魔的な花と  
見なされてきたわ

肉襞のように幾重にも  
重なった花弁の形は  
ヴァギナを連想させず  
にはおかしいし――

「ヴィーナスのはきもの」  
(パフィオペディラム)  
なんてヒール・フェチの  
男が聞いたら泣いて喜び  
そうな品種まであるのよ

このゾーンには  
私の今いちばん  
お気に入りの  
スレイブを  
飼ってるの

あれを  
見て！

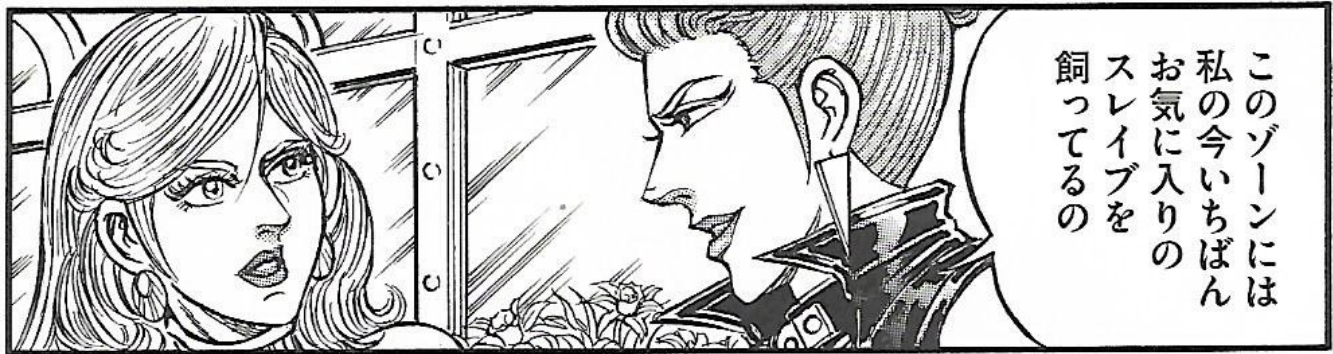
ミチルとサトル  
――双子の  
美少年マゾよ

ハァ

ブルブル

ハァ

ハァ





ううっ…  
ハイ  
ハイ  
ホホホホ…  
二人そろって  
もうこんなに  
パンツに染みを  
作って！



ところで  
マルグリット—  
オーキッドという  
蘭の英名は「罂丸」を  
意味するギリシア語  
オルキスに由来  
するのよ

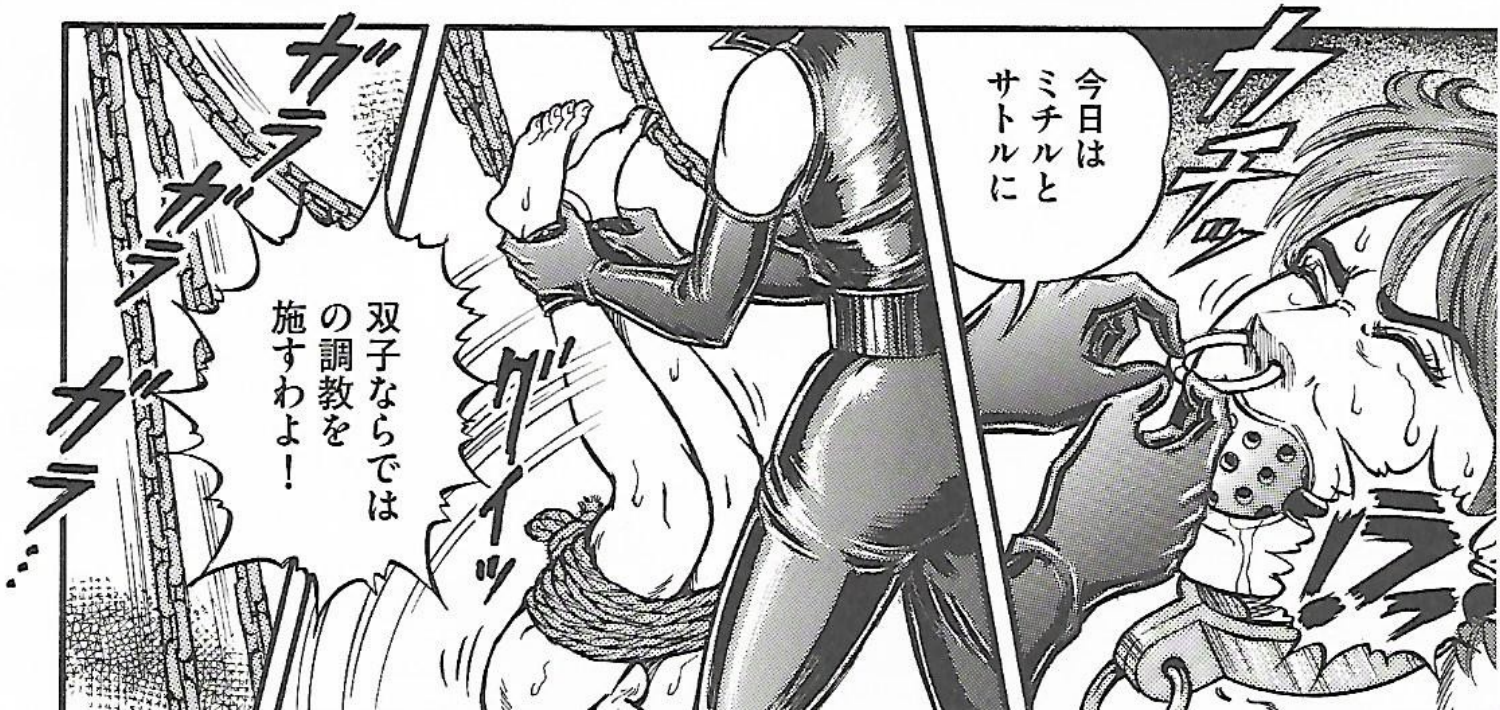


蘭の球根が  
双子のような  
二個一対の卵型  
をしているから  
らしいわ



今日は  
ミチルと  
サトルに

双子ならではの  
の調教を  
施すわよ！







さあ  
お前たち

ヒイイツ!

これから鞭で  
たっぷり可愛い  
がってあげるけど  
双子らしく互いに  
息を合わせて  
動かないと――

ゴムロープで  
つながった大事な  
ところが大変な  
ことになるわよ!

くうっ

ハア

ブル









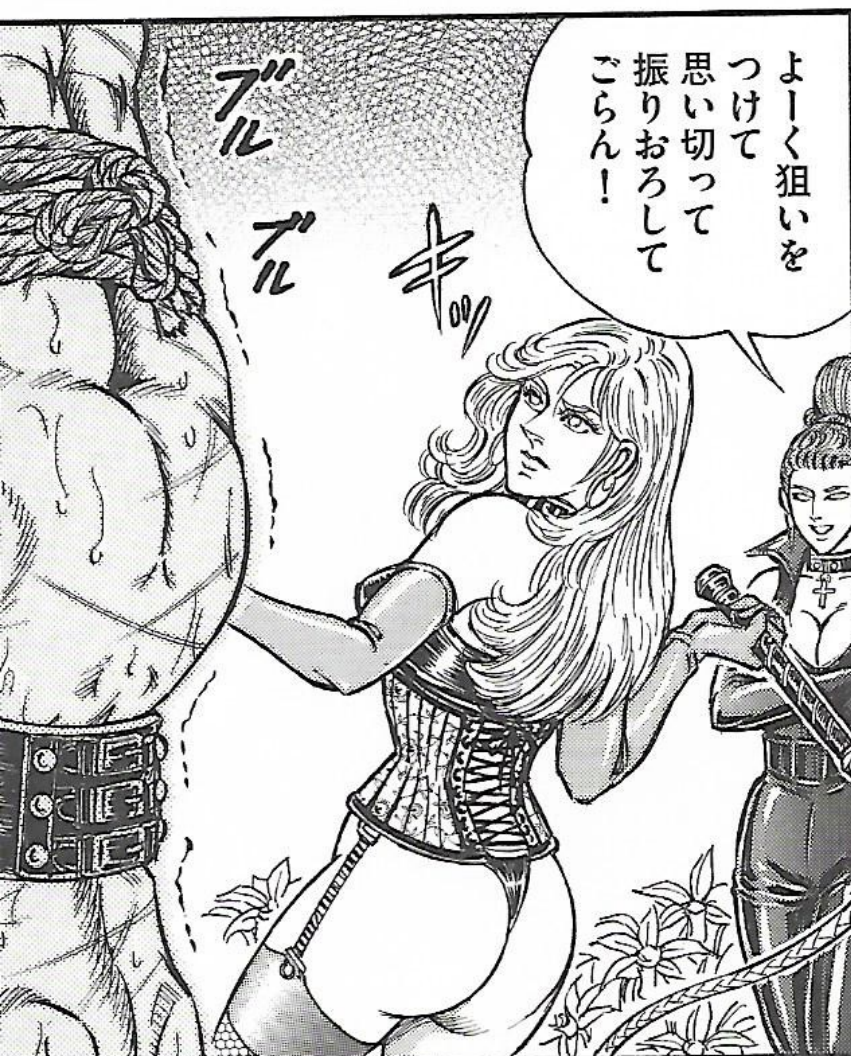
だいぶいい  
色になって  
きたわね

ハア  
ハア  
ハア



お許し  
下さひっ！

ぐえっ



よく狙いを  
つけて  
思い切って  
振りおろして  
ごらん！

ブル

ブル

キッ



さあ次は  
マルグリット  
の番よ

えっ！

でも…



大丈夫よ  
ほらこの  
鞭を使って







さあフィニッシュは  
相互フエツで二人  
同時にイキなさい

ふんふん...

出したミルクは  
お互いに全部  
飲み干すのよ!

そう!  
マルグリット  
その調子よ!

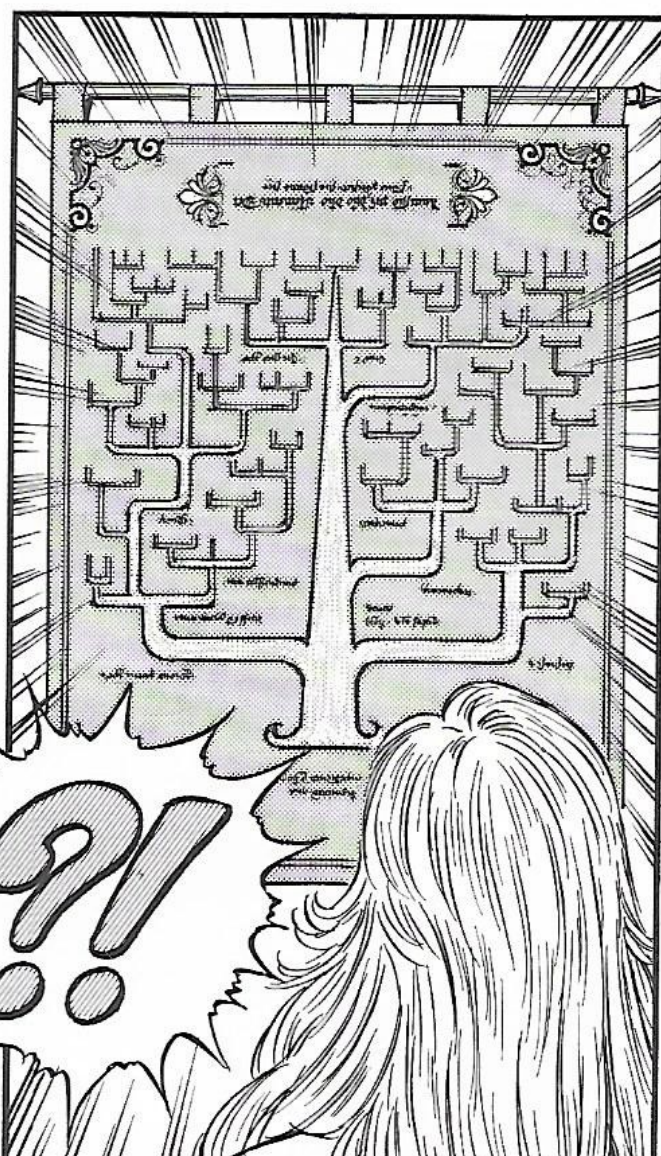
思ったとおり  
天性の  
戦士はあだわ





マルグリット  
実はあなたに  
一番見せたい<sup>ツリ</sup>樹<sup>ツリ</sup>が  
最上階の部屋にあるの

ついて来て



あっそいつは  
階段の踊り場用の  
靴拭きマットだから  
思いつき泥を擦り  
つけてやってね!

部屋の奥の  
タピストリー  
(壁掛け)を  
見て





サド侯爵の  
家系樹よ！



これは…誰かの  
ファミリーツリー  
家系樹かしら？

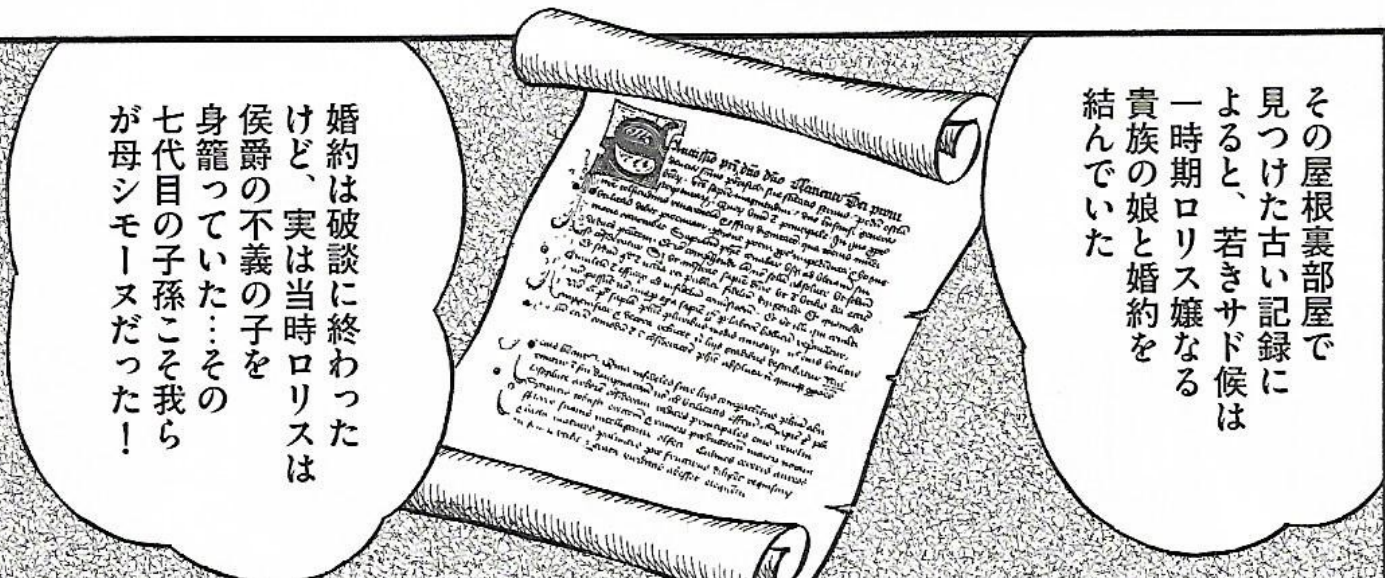


そう…これは  
ドナチアン・アルフォンス・  
フランソワ・ド・サド  
すなわち――



少し長い話に  
なるけど――

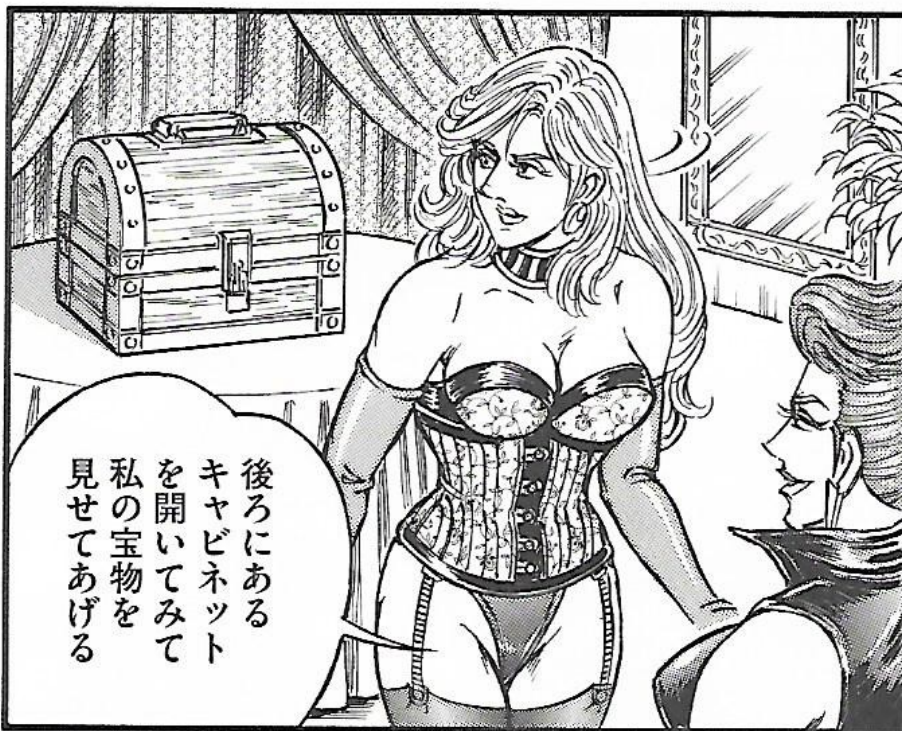
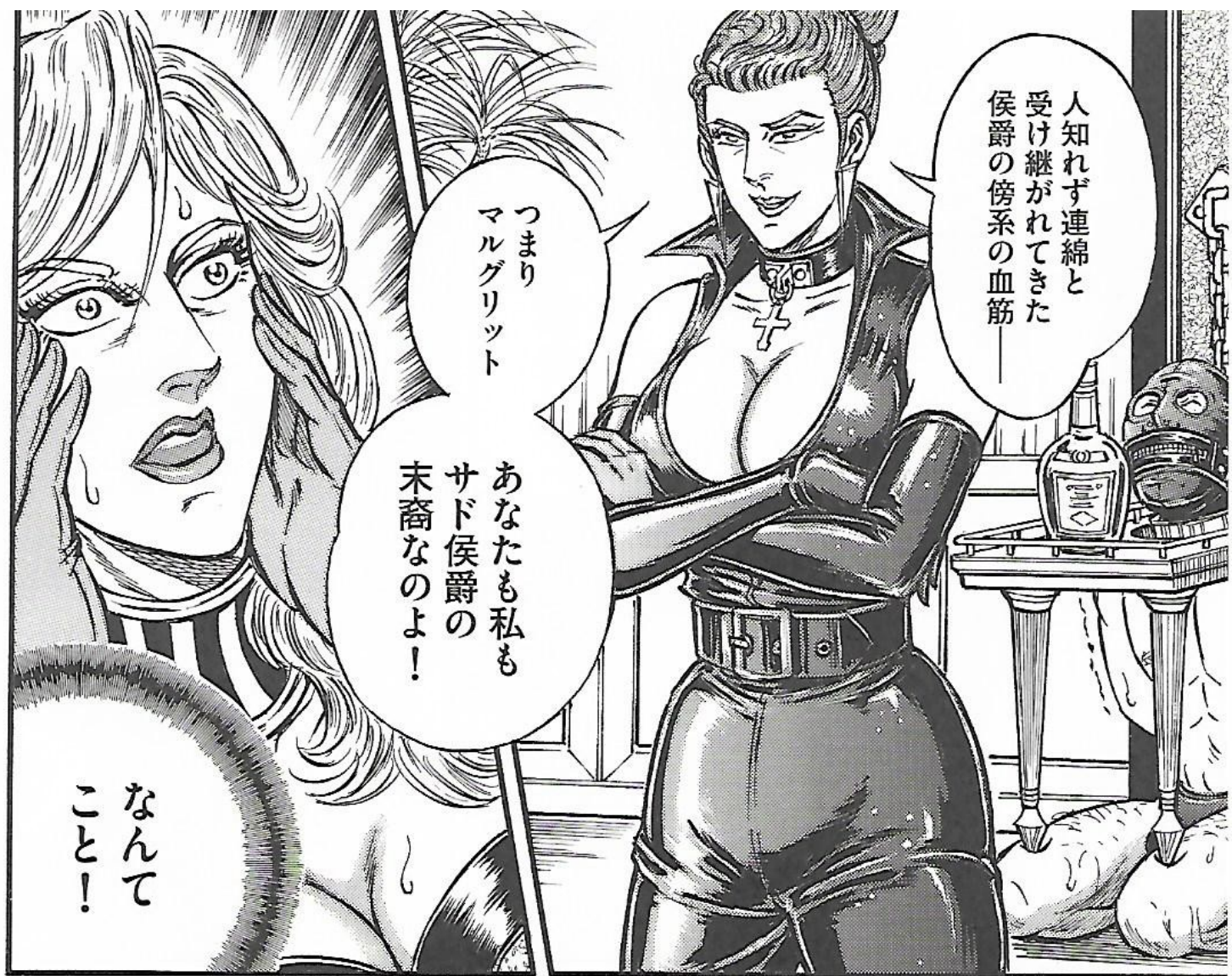
成人後  
自分のルーツを  
知りたくなった  
私は渡仏して  
母シモーヌが  
住んでいた家を  
探しあてたの



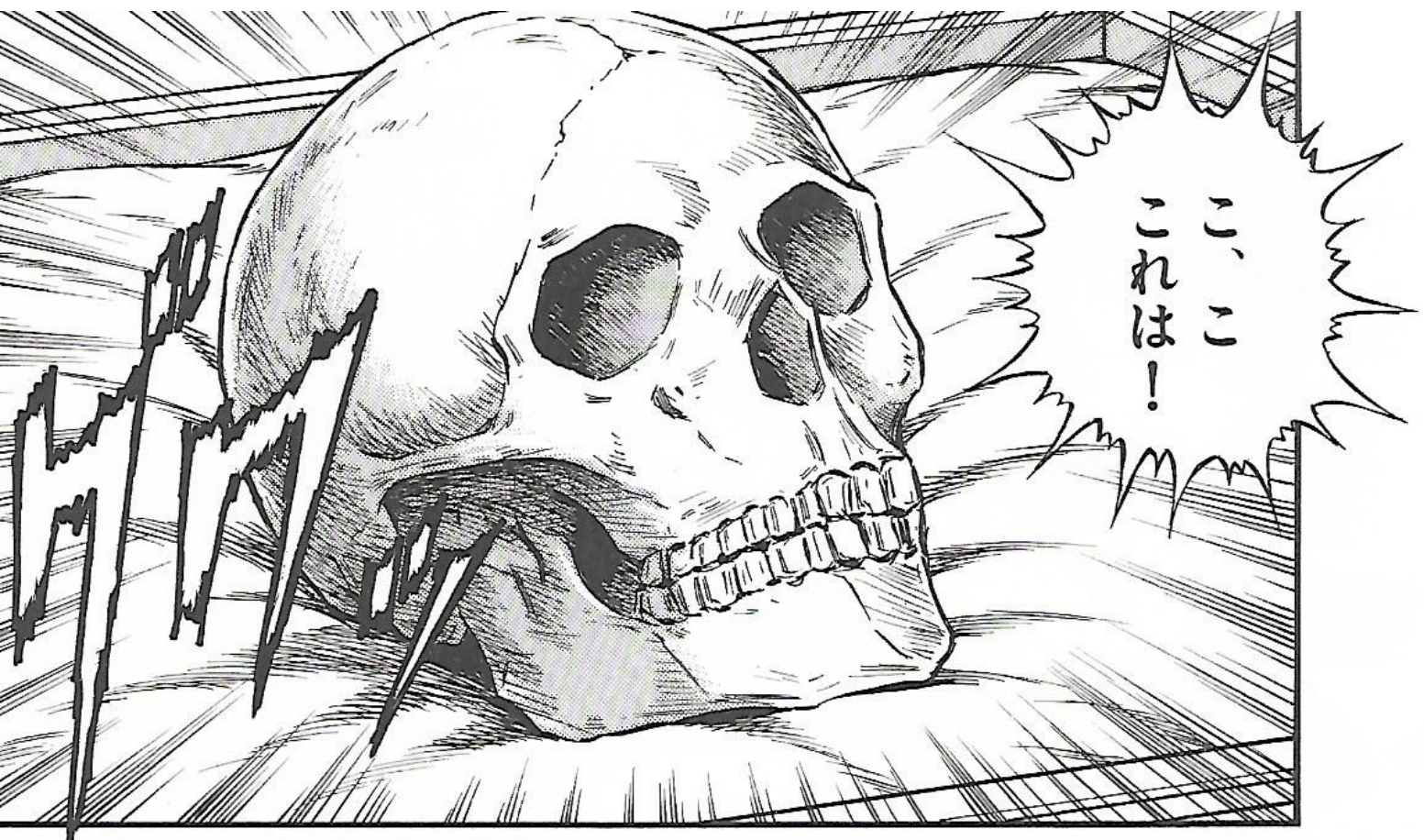
その屋根裏部屋で  
見つけた古い記録に  
よると、若きサド侯は  
一時期ロリス嬢なる  
貴族の娘と婚約を  
結んでいた

婚約は破談に終わった  
けど、実は当時ロリスは  
侯爵の不義の子を  
身籠っていた…その  
七代目の子孫こそ我ら  
が母シモーヌだった！









ここ  
これは！

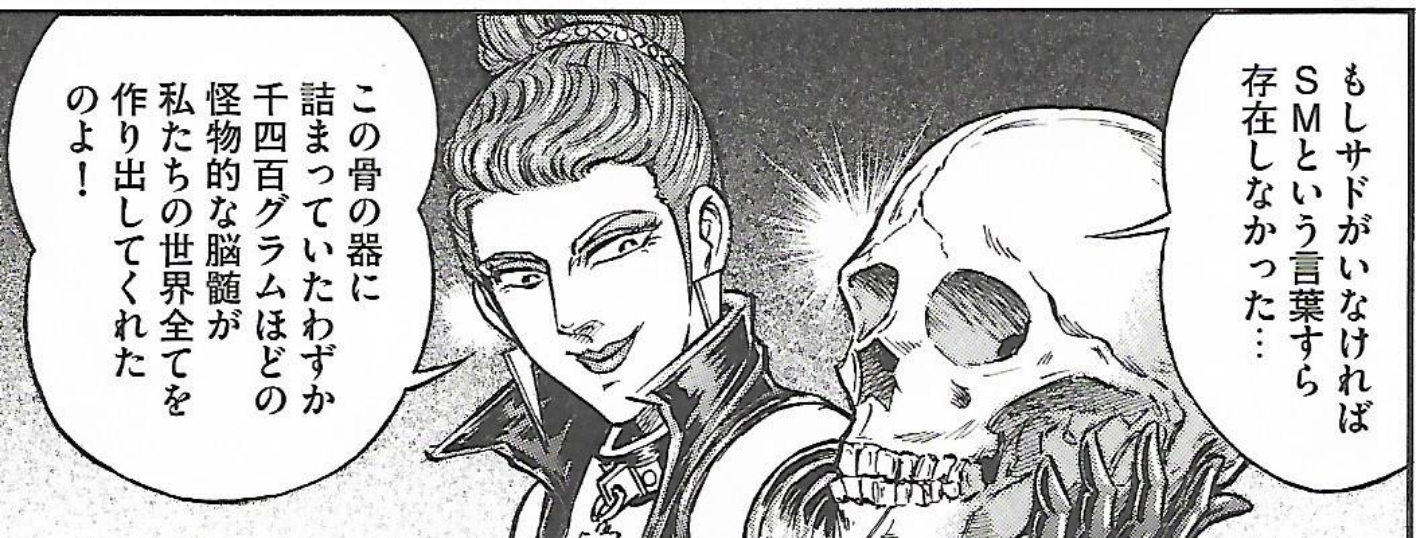
### 《INFORMATION》

サドの頭蓋骨は、埋葬から数年後、墓地整理のために掘り出されたが、学者らの手を転々としてアメリカに渡った後、行方不明になったままである。「たぶん現在も、どこかの個人—富豪か好事家か—が秘蔵しているにちがいない」(澁澤龍彦『サド侯爵の生涯』より)



我らが先祖  
たる、悪徳の王、  
サド侯爵の  
頭蓋骨！

あるブラック・  
マーケットで落札  
した鑑定書付きの  
本物よ



もしサドがいなければ  
SMという言葉すら  
存在しなかった…

この骨の器に  
詰まっていたわずか  
千四百グラムほどの  
怪物的な脳髓が  
私たちの世界全てを  
作り出してくれた  
のよ！



